



## 外部ストレージのインストールおよび設定

この項では、Packet Analyzer で使用する外部 iSCSI ストレージの情報を手動で準備する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [iSCSI アレイの設定](#)
- [Packet Analyzer IQN を見つける](#)
- [ストレージアレイの接続](#)

### iSCSI アレイの設定

ベンダーのユーザ ガイドを参照して、iSCSI アレイが適切に設定されていることを確認します。Packet Analyzer はほとんどのアレイ設定に依存しませんが、アクセシビリティやパフォーマンスにとって重要な設定がいくつかあります。

- ステップ 1** アレイで論理ユニット番号 (LUN) を設定するために、通常は、セグメント サイズを設定します。セグメント サイズを大きくすると、書き込み速度を向上させることができます。最大セグメント サイズ (最大 512 KB) を使用するようセグメント サイズを設定します。  
単一アレイには複数の LUN を設定できます。
- ステップ 2** アレイの LUN と iSCSI 修飾名 (IQN) をマップします。各 IQN は、アクセスするホスト (Packet Analyzer など) 用の LUN からなる別個のリストを表します。
- ステップ 3** Packet Analyzer は、全プロトコルを通して 32 基までの LUN をサポートします。複数の LUN は 1 つの IQN にマッピングできます。
- ステップ 4** また、Packet Analyzer では、iSCSI セッションのホスト側を表す IQN も使用されます。ホストの読み書きアクセスのために各 Packet Analyzer の IQN と LUN をマップする必要があります。これは、セキュリティ上の理由からほとんどのストレージアレイで必要です。特定のホストのみが LUN にアクセスできるようにします。各 Packet Analyzer には一意の IQN が割り当てられます。したがって、アクセスが必要なそれぞれの Packet Analyzer ごと、およびアクセス先のターゲット LUN ごとに、この手順を実行してください。使用する CLI コマンドの詳細については、[Packet Analyzer IQN を見つける \(4-2 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** Packet Analyzer 管理ポートに IP パスを設定します。詳細については、[ストレージアレイの接続 \(4-2 ページ\)](#) を参照してください。

## Packet Analyzer IQN を見つける

Packet Analyzer IQN を検索するには、次の **remote-storage iscsi local-iqn** CLI コマンドを使用します。

```
root@secpa.domain# remote-storage iscsi local-iqn
```

```
Local iSCSI Qualified Name: iqn.1967-04.com.cisco:SEC-PA-2400-K9.00:19:55:07:15:9A
```

## ストレージアレイの接続

iSCSI ストレージアレイの設定後に、iSCSI ストレージアレイで Packet Analyzer 管理ポートに IP パスが設定されていることを確認します。アレイには、Packet Analyzer の実行中に接続できます。

一部のアレイには複数のストレージコントローラ モジュールが備わっています。セキュリティ機能のために、通常は、モジュールの所有権を各 LUN にマップする必要があります。

Packet Analyzer はストレージにログインし、ストレージアレイの IP アドレスと IQN を使用して iSCSI セッションを開始します。ユーザ インターフェイスを使用してストレージアレイを接続するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Packet Analyzer Web インターフェイスにログインします。[Data Storage] ページにアクセスするために、[Capture] > [Packet Capture/Decode] > [Data Storage] を選択します。

**ステップ 2** [iSCSI Login] ボタンをクリックし、ターゲット IP と IQN を入力します。

ストレージテーブルが、新しく検出された LUN で更新されます。

LUN が現れない場合は、以下のことを行います。

**a.** **remote-storage iscsi list** を確認して iSCSI セッションが適切に開始されたことを確認します。

次の例で、iSCSI セッションを確認する方法を示します。

```
root@secpa.domain# remote-storage iscsi list
Storage ID: 16
Label:
Status: Ready
  Protocol: ISCSI
  Target IP: 172.20.10.82
Target IQN: iqn.2015-04:celermas.target18
Type: LUN
Model: IET VIRTUAL-DISK
LUN: 4
  Capacity: 24.98GB
  Available: 24.98GB
Active iSCSI Sessions:
tcp: [8] 172.20.10.82:3260,1 iqn.2015-04:celermas.target18
```

LUN 番号(上記の例では LUN 4)を使用すると、同じ IQN の LUN 同士を識別できます。この番号は各 IQN に対して一意であるため、異なる IQN の 2 つの LUN に同じ番号を使用できます。

**b.** iSCSI セッションが適切に開始された場合は、ストレージアレイ設定をチェックして以下のことを確認します。

- LUN がターゲット IQN にマップされている
- しかも Packet Analyzer IQN に、LUN に対する読み書きアクセスが割り当てられている

- c. 設定を変更する場合は、iSCSI セッションをログアウトし、再びログインします。ログアウトするには、CLI **remote-storage iscsi logout** を使用します。複数の LUN がユーザ インターフェイスに現れた場合は、いずれかの LUN を選択し、[iSCSI Logout] をクリックできます。ターゲット IQN にマップされたすべての LUN の接続が解除されます。

この時点で、Packet Analyzer 内から iSCSI 外部ストレージを使用できます。詳細については、『[Cisco Security Packet Analyzer Software User Guide](#)』を参照してください。

---

